



## 社会人大学院生の仕事と研究

### 両立ライフのリアル？

#### 八鍬奈穂さんの場合

社会人大学院生として3年間、働きながら昭和薬科大学で過ごし、学位を取得された八鍬奈穂さん（国立成育医療研究センター/妊娠と薬情報センター）にお話を伺いました。

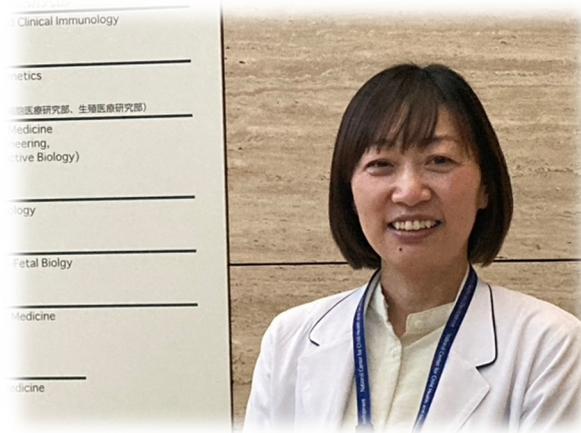
Q: 大学院に入るきっかけを教えてください。

もともと成育医療研究センター・妊娠と薬情報センター（以下成育）には、医師が多く、そのほとんどは博士課程を終えておられるのですが、薬剤師は学位がある人は多くなかったのです。仕事をしていると、話す機会の多い海外の人はほとんどが専門分野の学位を持っているので、いつかとれたらな、と思っていました。でも、日常業務が忙しく、学校に行って取得するのは難しいのではないかと思い、重い腰を上げるきっかけがないままに過ごしていたのです。

成育と大学が協定を結んだ時に、前山本学長と社会薬学研究室の宮崎生子教授がいらして、「あなたは学位を持っているの？」と聞かれたのです。「いつかは、と思っている」と話していたところ、妊娠と薬のセンター長にも背中を押していただき、より現実的に考えるようになりました。少しして、宮崎先生の研究室の見学に行ったあと、一度研究員となり、少し通ってみて、ぜひ大学院に入りたいという気持ちになり、受験を決めました。

Q: 合格されて、入学後はお仕事との両立はいかがでしたか？

大変でした。基本的には土曜日に大学に行きました。同級生が三人いて、励まし合っていました。先生方が勤務終了後の遅い時間からウェブで授業をやってくださったりして、現役の学生さんたちは夜の時間に合わせてもらうような感じでした。先生方は、「社会人なのに目指してくれてありがとう」という雰囲気、教えてくださるので、とてもありがたかったです。必修の授業も仕事を休むことなく、受けることができました。2020年入学でコロナ禍だったこともあて、オンライン授業が普及していった時期だったことも幸いでした。



Q: 面白かった授業を教えてください。

理事長の渡部先生の授業は楽しかったです。クリニカルエクゼンションをどうやって研究につなげるか、実際に研究する際に対照群を設けるか、アウトカムをどうするか、といったテーマでディスカッションしました。準備は大変でしたが、意見交換をした時間が楽しかったです。社会人大学院生ではない方、製薬会社や行政の方等、さまざまなバックグラウンドの仲間がいたので、職場での討論より、多様な意見を聞いた気がします。土曜日に対面授業に参加したときには、先生方の特徴やおすすめの授業などを教えてもらったりしました。学生に戻ったような感覚でした。

Q: ご家族の反応はいかがでしたか？

主人はいつか言い出すのではないかなと思っていたと思いますが、子どもたちは驚いていたかもしれないです。両親も無理をしないようにと心配していましたが、学位を取得した際は、思いのほか喜んでくれて、私もとても嬉しくなりました。親孝行にもなったかなと思いました。修了式には、私の母親と娘が参加してくれました。笑

Q: 学位を取得したこと、大学院で学んだことで業務に活かしていることを教えてください。

みんなでディスカッションをして、ひとつのことをやり遂げたという経験が見えないところで活きているように思います。論文や書類のなかで（PhD.）という文字を目にすると嬉しい気持ちになりました。また、自信にもなりました。教授や大学院生の同級生のおかげで視野が広がったと思います。「臨床」の視点に加え、いろいろな意見を聞いたことで、解決できることが増えたような気がします。

Q: 今後の活動として考えておられることがありますか？

妊娠と薬情報センターでは妊娠中の医薬品使用による児への影響について、患者さんから相談を受けていますが、相談をしてくれた患者さんを私たちの相談で終わらずに、地域に繋がられたらと思っています。実際に、学校薬剤師のかたと協力して、学校で授業をする話も出ています。そのような時には、薬の知識から妊娠期の使用に関してなど、伝えていけるといいと考えています。

また、薬学部の教育について、妊婦や小児の医薬品の使用についてもう少し詳しく授業をしてもらいたいと思うことがあります。コアカリにしっかり入れてもらいたいという思いがあり、大学の先生方と検討する機会があればよいのですが……。昭和薬科大学以外の大学ですが、生涯学習や学部生の講義の場で、「妊娠と薬に関する内容」を複数のコマで教えたりしています。学生からの授業に関するレポートからは、この分野にとっても興味を持っていることがうかがえます。評判がよいようです。

Q: これから学ぶ人へ、どのようなエールを送りますか？

社会人になると、大学院に行きたいなどの気持ちがあったとしても、業務に追われて行動に移すことがなかなかできないと思います。でも、やりたい気持ちがあれば、まわりのみんなが助けてくれるのだなと思いました。これまで頼ることが苦手でしたが、頼ることもとても大切と思いました。限られたコミュニティのなかでは考えが狭くなることもあります。大学へ行くなど自分のコミュニティを広げ、大学や行政など、みんなで取り組めば解決できることも社会課題には多いと感じています。

働いていると大学院に行くのは少しハードルが高いですが、迷っているのであれば一歩踏み出してみた方がよいと思っています。いろいろな方と知り合えるチャンスですし、仕事にもよい影響を与えたいと思います。大学院へ行くようになってから、「どうやったら（大学院に）行けるんですか」と複数人から聞かれました。行きたい人はいそうです！相談して下さった同僚はみなさん現在、大学院へ通っています。



Q: 昭和薬科大学はどんな大学だと思いますか？

暖かく迎えてもらって、驚きました。困ったことがあったらすぐ相談に乗ってもらえましたし、授業を受けただけで、名前も覚えてもらえて、ちょっとしたときに声をかけてもらえました。学長先生はじめ先生方に学内でお会いしたときにも、「進んでいますか？」と聞いてくださったりしました。学部生も熱心で真面目で、高学年向けに仕事のことを話した際も真剣な質問がたくさんきました。駅から遠いのは、慣れると思います！笑

Q: 最後に何かおっしゃりたいことを、ぜひ！

できれば同期の人がいたほうが頑張れると思います。横のつながりを作る仕掛けがあるといいのではないのでしょうか。私の場合は、励まし合いながら論文を書けたのはすごくよかったです。

(構成：吉永真理)